

森林太郎著

鷗外全集

第二卷

大正十三年十月二十日印刷
大正十三年十月廿五日發行
大正十三年十月廿五日再版印刷
大正十三年十月三十日再版發行

鷗外全集
卷二第

著作者

發行者

發行者

發行者

印刷者

印刷所

發行所

(非賣品)

森林太郎

東京市日本橋區通四丁目五番地
和田利彦

東京市麴町區內幸町一丁目六番地
中塚榮次郎

東京市牛込區久來町三番地
佐藤義亮

東京市小石川區久堅町百八番地
上村新輔

東京市小石川區久堅町百八番地
株式會社博文館印刷所

東京市麴町區內幸町一丁目六番地

鷗外全集刊行會

電話青山四六七二番・四二一四番
振替東京六二四八五番

鷗外全集第二卷目次

森林太郎先生筆蹟（鶴岡徹原境及び賀古鶴所に寄せし書翰）

審美論	一
目次	三
讀醜論	六
醜美の差別	六
言文論	六
學堂居士の文話	六
木堂學人が文のはなし	六
おなじ人の文の死活	六
青年文學	六
言と文と	六
路功處士といふ奇異なる外形論者	六
目次	

目次

こものこ	七
續柄音	九
續續柄音	一〇
麻布閑人に答ふる文	一六
鑒轍録	二三
河津金線君に質す	二五
西班牙文學	二六
西班牙音	二七
古今無幾の西班牙通	二八
再び西班牙音に就いて	二八
三たび西班牙音に就いて	二九
發音法餘論	三二
太陽の西班牙文學	三三
「言語の起原」附記	三四
言泉序	三六

當流比較言語學	一五九
假名遣に關する意見	一四四
鸚鵡石(對話)	一六六
朗讀法につきての爭	一七五
揭帝揭帝を二下り	一五五
逍遙子の朗讀説	一六六
朗讀問題	一五二
美妙齋主人が韻文論	一五五
平仄に就きて	二二一
再び平仄に就きて	二二一
三たび平仄に就きて	二三三
文海の藻屑	二二五
朦朧體	二二六
散文及び韻語の崇高悲壯	二二七
詩と韻文と	二二六

韻文と句讀と	二九
散文及び韻語の句讀	二九
句讀のいろいろ	二九
新體詩談	三三
熊谷直好と八田知紀と	三三
十三代集と百鍊抄と	三六
門外所見	三七
梔花拾遺序	四二
おもひ艸序	四四
相聞序	四六
彎月子	五二
支考	五二
俳派	五三
俳句と云ふもの	五三
漢詩の名	五六

紅豆集題詞	二六
石桂堂の逸事	二七
ギョオテ詩を論ず	二八
獨逸人の拉句詩	二九
希臘の民謡	三〇
レドキッツ	三一
詩句霸王樹の如し	三二
カルヅツチイ	三三
今の諸家の小説論を讀みて	三四
醫學の説より出でたる小説論	三五
無想小説、觀念小説、沒想小説	三六
性格と傾向と	三六
自然主義と「ロマンチック」と	三七
單碑と複碑と	三八
落語、小説、個性	三九

少年文集の評者	三〇一
詩人と小説家と	三〇一
義捐小説	三〇三
正太夫と義捐小説の發起者	三〇三
東漸雜誌に就きて巖巖生に言ふ	三〇八
諷刺小説	三〇九
悲戀愛小説	三〇九
猥褻	三〇九
新詩料	三一一
小説中人物の摸型	三一二
毒を以て毒を制す	三二五
人世の瑣事	三二六
ルウドキヒが新作	三二九
少年エルテルの憂	三三二
エルテルの譯者	三三四

ホルン・デールが社會小説……………	三三
MARIE VON EBNER-ESCHENBACH……………	三三
RUDYARD KIPLING……………	三〇
長谷川辰之助……………	三三
營口で獲た二書の解題……………	三三
唐土一代男……………	三四
袈裟と王旻が妻と……………	三三
標新領異錄よりその一……………	三九
水滸傳……………	三九
好色二代女……………	三八
浮世道中膝栗毛……………	三八
金金先生榮華夢及び大悲千錄本合評より……………	三〇
掘出し物を讀みて……………	三九
こわれ指環の評……………	四〇
學園花壇の評……………	四一

目次

鶴羽摘その一	四三
目次	四三
二人冗話(鹿天子 登仙坊 鍾離舎)	四九
目次	四九
雲中語(露伴 綠雨 學海 鷗外 蕉村 紅葉 思軒)	五五
目次	五五
雲中獨語	七〇
白露	七〇
斬奸	七〇
くされ縁	七二
雪夕驛路の聲	七二
白日夢	七三
無學の宰相	七三
女秀才	七四
葦未來際	七四
年の關	七五

酒袋	七五
三瓦角	七六
縁不縁	七七
三枚かさね	七八
夕霧	七八
衆生心	七八
もつれ絲、骨ぬすみ	七八
雲峰評	八一
青年小説評判	八一
新小説各評より	八四
選例	八五
金色夜叉上中下篇合評より	八六
報知異聞に題す	八一
少年學士序	八四
通例人の一生序	八六
聖人歟盜賊歟序	八七

目次

改訂水沫集序	六六
ユリアスス序	六二
枯木の後に書く	六三
馬琴日記鈔の後に書く	六五
重印蔭帥序	六六
新譯源氏物語序	六二
與謝野晶子さんに就いて	六三
銃後題言七則	六四
重刊戯曲小説通志序	六六
癡痕序	六七
唐艸表紙序	六九
蛙のはしがき	六四

編纂後記(平野萬馬)

審美論

目次

一、美の所在……………	五
二、美を擔ひたる主象……………	一〇
三、假象をして實を離れしむること……………	一六
四、美象の誠と粹と……………	二二
五、美假象の想なること……………	二三
六、假象と觀相と……………	二五
七、假象と圖と……………	三三
八、假象と形と……………	四四
九、主の美假象中に没すること……………	五六
十、美假象の種別……………	五九
十一、美假情の實情に殊なること……………	四三
十二、美假情と實情との錯誤及び混淆……………	四九

